

## 大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (29)



～ 創立 140 周年 まいふな～登小っ子と共に～

登野城小学校 校長 棚原 広幸

地球温暖化、少子高齢化、AI等の技術革新など現代社会はさまざまな変化への対応をせまられています。今後の様々な課題に対応していくためには、社会を構成する主体である一人一人が、高い倫理観をもち、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要であり、こうした資質・能力の育成に向け、学校教育も大きな岐路に立っているといえるでしょう。石垣市教育委員会の推進する「勇気づけの教育」を受け、本校のささやかな取組を紹介させていただきます。

本校は今年創立 140 周年を迎える歴史と伝統のある学校です。昔から交通の要となっている棧橋通り沿いにあり校庭にはデイゴの樹木が立ち並びます。真夏の暑い時には涼しい木陰をつくり、卒業が近づく頃にはたくさんの真っ赤な花を咲かせるなど通りを歩く人にも親しみのある学校ではないでしょうか。5年前に新築された校舎は木材が多く使われ温かみのある教室で 670 名余りの児童が日々、学校生活を営んでいます。校歌歌詞の一部である「誠実・勇敢・礼節」を校訓とし、それを学校経営の指針としています。全児童は校訓を暗唱しており、集会の度に大きな声で唱えるようにしています。そして

- 「誠実」なにごとにもまじめで、がまん強い登小っ子
- 「勇敢」どんな時にも強い体と正しい勇気のある登小っ子
- 「礼節」だれに対しても礼儀正しく思いやりのある登小っ子



終わりの会や何事かを振り返る機会には校訓を取り上げ、自分の行動を見つめるようにしています。また、令和 2 年度より石垣市教育委員会の研究指定を受け道徳教育の充実に努めています。週 1 時間の道徳の授業の充実に努めると共に学級づくりに生かすように工夫を図っているところです。その一つとして毎時間の道徳授業の板書を写真に撮って掲示し、道徳的価値が分かるようにコメントをつけたりしています。また授業の終わりには振り返りの時間を確保し、自分の考えを書けるようにしています。各クラス 30 名を超える児童の道徳ノートには振り返りに対する教師のコメントが赤ペンで書かれています。「そんな考えもあるんだね。」「とてもすてきな行動ですね。」等、コメントのひとつひとつが児童の考えを尊重し、生かしていこうする愛情に溢れています。道徳ノートを通した児童と担任のやりとりは、週 1 回の限られたものではありませんが、その積み重ねが少しずつ児童の変容につながるものと信じて頑張っています。各棟の玄関口には児童の心を揺さぶるような言葉や詩が掲示され、各教室や廊下には「良いところ見つけ」を行い掲示する事で、一人一人が自分の良さを意識し、有用感を高めることができるように試みています。その内容を見ますと、「○○さんのいいところは、分からないところを教えてくれる。」「○○さんのいいところは絵が得意なところです。」と児童の目線から見た友達の良いところが書かれており、児童の有用感を高めるように工夫しています。

さて、保健室前では検温を忘れた児童のために養護教諭の先生と二人で検温活動を継続しています。

登校後、まっすぐに教室に行けない児童は保健室に来て気持ちを整えてから、教室へと向かいます。きっと養護教諭の先生の笑顔や励ましで自分を勇気づけ一歩踏み出していくのでしょう。最近、毎日親子で保健室登校をしていた児童がまっすぐに教室へと行けるようになりました。ほぼ毎日、一緒に登校してくれた保護者の支えが成長を支えてくれたのではないのでしょうか。そんな成長を毎日見つめながら全職員で児童を励まし続けたいと思います。